松禪寺報

http://syozen.com

第 47 号　発行日　平成 23 年 12 月 20 日

石室山松禪寺

住職　高橋　乾峰

〒 668-0363
兵庫県豊岡市但東町栗尾 469
電話　0796-55-0034
FAX　0796-55-0066
Mail　kenpou@syozen.com

成道会

12月8日
臘八や苦辛に堪えたり若き僧

平成21年2月、福知山仏跡巡拝団とのご縁をいただき、お釈迦様がお悟りを開かれた成道（悟りが完結に成る）の地などを参拝する機会を得ました。

お釈迦様は6年もの間、修行の旅を続けました。当時の修行といえば、肉体を痛めつける苦行難行が中心でしたが、その修行に疑問を抱き、衰弱しきったからだで山を下りました。尼蓮禅河（ナイランジャラー河）で沐浴（身を洗うこと）し、そこを通りかかった村の娘スジャータから乳粥の供養を受けます。生気を取り戻したお釈迦様は、ブダガヤの菩提樹の下で坐禅を組まれるのです。

人や動物、様々な命がこの世にはある。山も川も草木も、この大自然のなかで繋がりをもっている。それぞれが役割を担っている。

12月8日、明けの明星が輝く頃、ついにお悟りを開かれました。仏陀（悟れる者）の誕生です。

日本では、この12月8日に「成道会」という報恩の法要を行います。また、12月を臘月といい、その8日であるから「臘八」と呼び、多くの修行道場では一週間前から臘八大接心という不眠不休の厳しい修行に入ります。

欲のままに楽しみにふけることも愚かだ。自分を苦しめるものに没頭することも愚かだ。いずれかの極端に走ってはいけない。

どんな立場であろうとも、どんな仕事をしようとも、人は悟ることができるのだ。

自分の行動が、この自然にとって、この社会にとって、あらゆる生き物にとって、本当に大事なことなのかよく考えなさい。

お釈迦様がお悟りを開かれた地、ブダガヤには、高さ52メートルの大塔がそびえたち、その一角には菩提樹とお釈迦様が坐禅を組まれた金剛宝座があり、今でも世界各国から多くの仏教徒による聖地巡礼が続いています。

▲お参りが絶えないインド・ブダガヤにある大塔（右側）と菩提樹・金剛宝座

▲お釈迦様が６年の修行を終えて雪山から下りてこられた様子を描いた出山釈迦図（狩野永峯作・松禪寺蔵）

本山参りに行ってきました

大本山妙心寺で拝観と法要、東福寺では紅葉を観賞

大本山妙心寺への団体参拝と東福寺の紅葉を愛でようと、11月21日（月）に行って参りました。参加したのは、桂昌寺から6名、松禪寺から20名、住職の総勢27名です。午前6時半、西谷・桂昌寺前を観光バスが出発、順次参加者を乗せながら一路京都は花園へ。車中では松禪寺と桂昌寺の総代さんが歓迎のご挨拶、一日楽しい団参旅行にしましょうと述べられました。

午前9時40分頃、大本山妙心寺へ到着し、花園会館で小憩の後、案内の和尚さんに連れられて玉鳳院・開山堂へ向かいました。玉鳳院は、妙心寺の基を開かれた花園法皇様が祀られ、開山堂は妙心寺の開山となる無相大師様が眠っていらっしゃるお堂で、微笑塔とも呼ばれています。共に手を合せました。次に向ったのは法堂です。江戸時代に建てられたもので、いわば多目的施設です。鏡天井に描かれた狩野探幽守信筆の雲龍図は、観る者を圧倒します。続いて今は保存されている黄色調の釣り鐘の説明を聴き、最後に明智風呂へ向いました。明智光秀の菩提を弔うために、叔父の密宗和尚という方が天正15年に建てられた蒸し風呂です。

▲まずは玉鳳院と開山堂に向かい手を合わせました

そして、法要会場である微妙殿へ向かい、午前11時頃から法要が始まりました。管長様である河野太通老大師様のお導きで、懺悔文、三帰依文、懺悔礼拝文を唱えながら礼拝しました。お経も唱え、特別供養を申し込まれた方は塔婆も読み上げていただきました。その後、管長様から5回目及び10回目となる参拝者に賞状と記念バッジが授与されました。10回目受賞者は福田春夫さん、柴田孝さんのお二人。5回目受賞者は藤田玉磨恵さん、瀧本實さん、衣川力さんの3名でした。

最後に、常任布教師・上沼雅龍（かみぬまがりょう）師の法話を拝聴しました。今ある命に感謝すること、父母を敬い大切にすることは、父母のみならず、たったひとつの貴重な命をいただいた多くの先祖様にも感謝することになるといった話を説かれました。

法要後は、参拝の記念写真です。少し緊張の趣でパチリ、良く撮れました。帰りに東日本大震災の義援金（瓦奉納）にも協力され、花園会館に戻り、土産物を買って本山を後にしました。

▲法要に続き管長様のお言葉を拝聴＝妙心寺・微妙殿

さあ、楽しみの一つ、昼食です。祇園は花見小路にある点心懐石のお店「花郷（はなさと）」で、ゆっくりと、話をしながら、お酒もいただいての食事です。お味はいかがでしたか。

お腹も満腹となり、次は臨済宗東福寺派の本山である東福寺に向いました。東福寺は東山の山麓にあり、四季を通じて風光明媚な名勝地として知られ、なかでも仏殿から開山堂に至るあいだの渓谷に架けられた細長い橋廊「通天橋（つうてんきょう）」の紅葉は絶景と称されています。例年ですと11月中旬から下旬にかけてが紅葉の見頃とされていますが、今年は色づきが遅くまだ紅葉真っ盛りとはいえませんでした。それでも境内はあふれんばかりの観光客で、その名が知られていることを実感しました。また、迷子になる人もなく無事に帰りのバスに乗り込みました。

▲常任布教師・上沼師の法話を拝聴

帰路のバスは行きと違って、お酒も入りにぎやかな車中となりました。毎年団参を計画して欲しいといった要望もありました。ある程度の人数さえ集まれば考えたいものです。午後8時頃には皆さん、無事に家に着かれました。お疲れ様でした。次回も是非お参りください。

参加者の声

先日は、大本山妙心寺への団体参拝にご一緒させていただきまして、誠にありがとうございました。また、早速その時の写真を届けていただき、重ねて感謝いたします。

祖父から聞かされていました本山参りに初めて参加し、身の引き締まる思いでした。

本山では、ご本尊にお参りして、心新たな気持ちになりました。また、広大な敷地、法堂の天井に描かれた狩野探幽の「八方にらみの龍」などを鑑賞し感動しました。

今後も参拝の機会があればお参りをして、「おかげさま」を感じて生きたいと思います。

西垣勝美

おかげさまで、妙心寺への団参をさせていただきまして有難うございました。長年の勤めをようやく退職し、家の仏さんの前で手を合わす朝の日課が自然にできるようになりました。今回は、少しゆとりの時間が持てるようになり、

「参拝と紅葉の東福寺そして祇園で懐石昼食」のお知らせに気が向き、仲間に入れていただいたというご縁でしょうか。

賑わいをみせた東福寺とは好対照の静寂と荘厳さの中にたたずむ妙心寺にて、お経をいただき身の引き締まる思いがいたしました。観光で訪れた時とは別のものでした。

但東の山里に、静かに染まって散りゆく紅葉と日本中の人々が観るはなやかな姿を誇る京のそれとは違いはないのかもと思いました。

▲祇園「花郷」で懐石料理をいただきました

横谷恵美子

大本山妙心寺参拝10回の記念品をいただき、ありがとうございました。東福寺での紅葉は、月曜日というのに大勢の人と何十台ものバスで参拝者があふれ、その多さにびっくりしました。2年に1回の団参ですので、皆様一人でも多く参拝いたしましょう。

福田春夫

秋深まる11月21日に大本山妙心寺参拝と紅葉の東福寺参拝に参加し、妙心寺法堂では当日寒かったこともありますが、凛とした澄み切った空気にふれ、背筋がのびた気がしました。

堂本昌彌

お世話になりました。参拝昼食までは良かったです。初めての参加でしたが、良い思い出になりました。東福寺は今一つでした。次回も世話になろうかと思いますが…。バスの中での世話等は役員にまかせ、参拝、昼食、みやげ買い物程度を目標に中型・マイクロバス等使用されたら、「ちょっと松禅寺に参ってくる」といった気分で毎年計画可能かと。下々の庶民の手の届く費用を希望します。

匿名

▲東福寺の境内の紅葉

先の団参には大変お世話になり有り難うございました。

本山妙心寺は何回お参りしてもその大きさ、その広さ、その厳かさには圧倒させられます。次にお参りした東福寺は、もみじの名所とあって観光客の多さに驚かされました。今回が7回目の参拝でしたので、10回を目標にお参りをしたいと思っていますので、次回もぜひお供をさせていただきたいと思います。

匿名

妙心寺参拝に参加させていただき有り難うございました。祇園での昼食、大変おいしくお酒もいっぱいいただきました。東福寺の紅葉は少し早いように思いましたが、立派なもみじの木が有りびっくりしました。また、但東では人が住んでいるのかと思うくらい、ひっそりとしていますが、人間の多さにびっくりしました。楽しく参拝ができた事を喜んでいます。次回を楽しみにしております。お礼まで。

藤原利幸

妙心寺の参拝には大変お世話になり、ありがとうございました。年齢に差があり、東福寺の紅葉も結構でしたが、足の悪い方には無理のようでした。食事については最高でしたが、少しアルコールが多いかと思います。

衣川　力

私は元来宗教には興味なかったんです。だけど、父母が亡くなってお寺を大切に思うようになりましたね。

63年に女房を亡くし、本当に悲しく、寂しく、辛い毎日だったんですよ。そんな落ち込んだ心を静めてくれたのが、先祖様、仏様、だったんですね。でもね、、女房が死んで25年、辛さも薄らぎ、今は法事するのも面倒、止めとこか？、なんて…。

今回妙心寺への団参に参加しました。管長様の読経を聞きながら、亡き父母や、女房など、昔を思い出しているうちに、何だか法事しなきゃ…、そんな気持ちになってきたのです。結局、法事をする事に決めたんです。管長様の有り難い読経が、私の心を動かしたんかなあ…、これって変ですか？

川戸泰三

▲東福寺の紅葉を愛でる人の多さにも驚きました

先日は大本山妙心寺への参拝に参加させて頂きありがとうございました。道中バスの中から眺め乍らおしゃべりの楽しい時間。本山へ着くと何となく心も体もすっきりと、輪袈裟を掛ければ尚の事、気持ちの落ち着く一刻でした。緊張して有り難いお話もお聞きし焼香をさせて頂き元気でお参りできました。祇園にてお昼を頂き、午後は東福寺の大きさ広さに驚き、紅葉の美しさ、また、橋の上から見ると川のせせらぎに映えるさまは、また違った表情が見えて感動でした。田舎者の私には人の多さにも驚きましたが、帰りはバスの走る外も暗くなり、行きのような紅葉の山は見られませんでした。5回参拝の賞を頂くことができましたこと、有り難うございました。

藤田多磨恵

▲妙心寺開山堂

11月21日朝寒さが厳しい、本山妙心寺の参拝の日です。期待と緊張の中、管長様の読経を頂きさわやかな幸せを感じました。その後の食事、はなやかな舞子さんの素顔にも出会い、おいしい京料理も頂き、紅葉の名所として知られる東福寺の紅葉を愛でる事ができ、満足満足の旅でした。計画下さいました松禅寺様ありがとうございました。

藤田すみゑ

いつもお世話をして頂き、ありがとうございます。

お経を頂く時、気持ちも落ち着き、本当に身も心も洗われる様な気が致します。出来る限り団参させて頂きたいと思っております。紅葉は今ひとつといった所でしたが、御食事もおいしくいただきました。舞子さんも身近に感じられ、今年は目の保養もさせていただきました。本当にお世話様でした。ありがとうございました。

岡畑知津子

四国八十八ヶ所霊場巡拝に行ってきました

伊予の国から讃岐の国へ、20ヶ寺に札を打ちました

平成22年4月から始めました四国八十八ヶ所霊場巡拝（豊岡四国霊場巡拝団主催）ですが、その第5回を11月28日(月)から30日(水)までの2泊3日の旅程で実施いたしました。今回は11名の参加で、伊予の国「菩提の道場」14ヶ寺、讃岐の国「涅槃の道場」6ヶ寺の霊場に札を打ちました。

▲第 56 番太山寺＝愛媛県今治市

●11月28日（月）くもり

バスは午前5時に豊岡・楊岐院様を出発、松禪寺を経て一路しまなみ海道をめざします。天気は曇りですが、雨がなければ吉です。午前10時25分、八十八ヶ所のなかで唯一「坊」の名がつく今治市の第55番南光坊に着き、いよいよ巡拝の始まりです。本堂での読経、続いて大師堂での読経、記念写真といつもの巡拝に皆さんも十分慣れてこられました。少し時間は早かったのですが、今治市内の「笹」で昼食を済ませました。午後は、第56番泰山寺から開始です。愛媛県今治市は世界最大のタオル産地だそうで、門前にもタオルマフラーが売られていました。第57番栄福寺には、足の不自由な少年がこの寺に訪れた際に歩けるようになり、奉納した木製の箱車が本堂に置かれていました。第54番延命寺、第53番円明寺と巡拝は続きます。円明寺には、隠れキリシタンの信仰に使われていたキリシタン灯籠が大師堂の横に祀られています。第52番太山寺（松山市）の巡拝を終えて、今夜のお宿である鈍川温泉へ向かいました。ここは、今治市玉川町にある鈍川渓谷沿いにある温泉です。平安時代には湧出していたそうで、今治藩の湯治場として賑わいをみせた時代もあったそうです。今は、山々と渓谷に囲まれた、ひなびた感じの温泉ですが、とてもゆっくり落ち着ける温泉場でした。

▲第 57 番栄福寺＝愛媛県今治市

●11月29日（火）くもり

午前8時19分、鈍川温泉を出発、第58番仙遊寺（今治市）から開始、第59番国分寺には願いを込めて握手をすると願いが叶うという握手修行大師像が境内にあり、皆さん握手して次をめざしました。西条市に入り第61番香園寺は、境内に入ると近代的なコンクリートの大聖堂がそびえたっていました。この2階に本尊さんとお大師さんが祀られ、劇場のような造りでイスが設けられた超近代的な寺院でした。続いて、第62番宝寿寺、第63番吉祥寺へと巡拝、吉祥寺の

境内には、丸い穴の空いた成就石があり、本堂前から目を閉じて進み、金剛杖が穴に通れば願いが叶うといわれ、何人か挑戦されていました。午前11時14分、西条市内の料理処「鈴吉」で昼食、うなぎをただきました。正午、第64番前神寺から再開です。ここは、かつて滝行が行われていた御滝不動尊に1円玉を投げて岩肌に張り付けば御利益があるということで、いっぱい張り付いていました。第60番横峰寺は、くねくねと折り曲がる山道をバスで上り、駐車場から境内までも少し歩かねばならない山奥にある札所です。道幅も狭く、バスの運転手さんもすれ違う自動車に難儀をされていました。境内はシャクナゲの名所であり、開花時期は見事だろうと思います。山を下りて第65番三角寺へ向かいます。三角寺は子授け祈願で有名で、寺の台所のしゃもじをもらってかえれば子宝に恵まれるとのことでした。ここで、この日の参拝は終わり、香川県・琴平町にある、ことひら温泉「琴参閣」に向かいました。今宵の宿はデラックスです。

▲第60番横峰寺＝愛媛県西条市

●11月30日（水）晴れ

午前8時27分、ホテルを出発しました。朝早く朝食前に、こんぴらさんにお参りされた方もありました。最終日は、第66番雲辺寺（徳島県三好市）から始まりました。ロープウェイで山に上がります。約7分間、スリル満点の眺望と雄大なスケールが楽しめます。昔は難所中の難所で、行き倒れになった巡礼者も多くあったと聞きました。続いて第67番大興寺です。この仁王像は、放火の罪で処刑された八百屋お七の恋人・吉三が、四国遍路の途中で仁王像の首が痛んでいたのでお七の供養にと修理して祀ったといわれています。次の第68番神恵院と第69番観音寺は、同じ境内に二つのお寺があるという珍しいところです。神仏分離令の影響でそのようになったそうです。午後12時35分、「ふる里」というどんのお店で昼食をとりました。讃岐といえばうどんです。おいしい讃岐うどんを満喫しました。午後からは2ケ寺の巡拝です。三豊市の第70番本山寺、第71番弥谷寺です。弥谷寺は、石段540段を上らなければなりません。300段ほどを専用のタクシーに頼めば省けますが、いずれにしても険しい山肌に建つお寺です。ここは、弘法大師が年少の頃に学問に励み、後に修行もしたといわれる洞窟が残されており、今も参拝者が必ず手を合わせるところです。弥谷寺の参拝を午後2時15分に終え、帰路に就きました。午後7時前に夜久野町まで戻り、ラーメン屋さんでホッとしての夕食と相成りました。

▲第66番雲辺寺＝徳島県三好市

いよいよ来年は、結願となります。みなさん揃って高野山へお参りできることを願っています。

山陰東教区第二部の特別布教を開催

松禪寺を会場に約70人が拝聴、法話に感動の声も

平成23年度の山陰東教区特別布教会を、11月8日（火）午後2時から松禪寺で開教しました。当山の役員さんをはじめ一般檀徒の皆さん、ご近所の他宗派の方も参加され、山東町と和田山町からも総代さん、御住職が参加され、総勢70人ほどが狭い本堂を埋め尽くしました。台番という番号がお寺にはふってあり、これによって開教寺院の順番がまわってきます。小さな教区の小さな部ですし、無住寺院も少なからず、また数年で順番が回ってこようと思いますが、兎にも角にも無事終えることができました。また、部内の若手住職・副住職さんのお手伝いもいただいて、滞りなくすすめることができました。

▲「目覚める」をテーマに法話される微笑義教師＝ 11 月 8 日、松禪寺

今年の布教師さんは、長崎県からお越しいただいた微笑義教師です。本山の花園会本部長もなさり、さまざまな教化関係の委員も経験されてきた大ベテランの布教師さんで、テーマ「目覚める」についてたっぷり90分、しかし、見事に聴衆を引きつけて話されました。布教が終わってからは、布教師さんと一緒に茶礼を行い、聴者の質問にも快く応えていただきました。和田山からお越しいただいた総代さんは、「とても感銘しました」と喜んでおられ、帰り際に布教師さんに御礼を言っておられました。

ご出席していただいた皆様、ありがとうございました。

▲法話を聴かれるご来山の皆さん

著書紹介

『お地蔵さんの世界 ―救いの説話・歴史・民族』

慶友社から発行された渡浩一（わたりこういち）（明治大学国際日本学部教授）著「お地蔵さんの世界～救いの説話・歴史・民族」を紹介します。この著書のなかには、松禪寺が所蔵する「六道十王図」の賽の河原が掲載されています。松禪寺のご本尊もお地蔵さんです。地の蔵とあるように、とてつもなく大きな懐をもって、私達を抱いてくださる仏様です。村や町の辻に立ち、人々を見守り続けておられるお地蔵さん、その歴史を説いた著書です。定価2千6百円＋税。

京都観光にお役立て下さい

スマートフォンや携帯電話の便利なアプリケーション紹介します

スマートフォン（インターネットとの親和性が高く、パソコンの機能をベースとして作られた携帯電話）や従来型の携帯電話をご使用の皆さんに、京都観光へ行かれる時はぜひご活用いただきたい情報です。

●スマートフォンで禅寺巡り

臨済宗・黄檗宗の研究機関として活動する財団法人「禅文化研究所」では、日本システム技術、和合舎の三者の業務提携により『京都禅寺巡り』を企画・開発されました。これは、Android（アンドロイド）スマートフォンの専用ソフトです。京都市内にある臨済宗・黄檗宗寺院の情報を総合的に提供し、お寺文化と歴史に興味を持つ人たちにより深く禅文化を知ってもらうことを目的に制作されました。一般公開している寺院の拝観情報やアクセス情報はもちろん、各寺院の持つ歴史についての解説を見ることができるほか、布教師の法話、同研究所で作成した禅クイズで楽しく禅知識が学べます。また、通常非公開寺院の特別拝観情報もアップデートされるので、旅先でチェックすれば思わぬご利益が得られるかもしれません。約1ヶ月でダウンロード数が6千件を上回るという人気ぶりです。スマートフォンにはGPS機能（全地球測位システム）が付いているため、カメラで撮影した場所は自動的に記録され、アルバム整理もできます。さらには、寺紋などをスマートフォンの画面に登録し、スタンプラリーのように巡ることもできます。禅文化のホームページ（http://www.zenbunka.or.jp/）にある「京都禅寺巡り」に入ればインストールできます。

●携帯サイトで妙心寺観光

こちらは従来型の携帯電話で、妙心寺の観光や塔頭紹介を見ることができるものです。妙心寺の教え、歴史の紹介をはじめ、拝観・境内案内では、1時間コース、2時間コース半日コースを紹介しています。また、妙心寺山内の塔頭紹介も見られますので、広い境内を散策しながら、その歴史と文化を垣間見ることができます。携帯電話のバーコードリーダーから左記のバーコードを読み取ってください。

以上、カタカナ語だらけの情報でスミマセン。

妙心寺携帯サイト

▲妙心寺携帯サイトのバーコードです。携帯電話から読み取ってください。

花園会館特別企画のご案内

京都・きぬかけの路ぶらり旅

期間：平成24年1月21日（土）～3月9日（金）
定員：各コース25名　※催行人数10名
料金：お一人様　1泊2食＋ぶらり旅　1万6千8百円（税込）

京都・きぬかけの路をテーマに和尚さんと巡る　花園会館オリジナルプランご用意いたしました。「仁和寺（金堂）特別拝観」「染工房見学と体験」「精進料理とワイン」「坐禅体験」その他盛りだくさんの内容できっと満足していただけます。

【設定日】
1月21日（土）・28日（土）
2月4日（土）・11日（土）・18日（土）・25（土）
3月2日（金）・9日（金）
計8回

12時30分…集合／チェックイン（フロント）
13時00分～きぬかけの路巡りと染色体験、仁和寺「金堂」特別拝観
18時00分…ご夕食「精進料理とワイン」
7時00分…坐禅体験（翌朝）
8時30分…朝食“禅の作法に基づいて”（花園会館にて）

～魅力ある内容をご紹介！～

■和尚さんと巡る「京都・きぬかけの路ぶらり旅」
■世界遺産・仁和寺「金堂（国宝）」特別拝観（通年非公開）
■染工房の見学と染色体験（木原工房にてハンカチ染色体験！）
■禅僧とソムリエのコラボレーション「精進料理とワイン」（ご夕食）
■「坐禅体験」（翌朝　妙心寺塔頭金牛院にて）
■「茶礼・京番茶と洋菓子」（御室さのわ）
■木版画ギャラリー見学（ギャラリー雅堂）
■きぬかけの路　龍安寺周辺にてお買い物

《オプション》
きものレンタル（着付サービス）

プラス3千5百円でスペシャルスタイリスト下村千里が厳選した着物をご利用いただけます。

※ご予約・お問い合わせは、花園会館まで。
電話075―461―6857

東日本大震災花園会見舞金募金

ご協力ありがとうございます

本年9月に檀信徒皆様に、東日本大震災に被災された妙心寺派寺院・花園会員さんへの見舞金を募りましたが、お蔭さまをもちまして12月10日現在、町内外の93人から21万5千円もの浄財をお寄せいただきました。また、松禅寺に設置していました募金箱にご協力いただきました1万331円も、この見舞金募金に加えました。

妙心寺派花園会員互助の精神をもって行われた見舞金募金は、総額6億円を目途に、被災された花園会員の皆様に見舞金をお渡しするものです。

この見舞金募金は、平成26年3月まで本山で受け付けられます。ご協力いただいた皆様のお名前は、志納芳名帳に記録しております。まだご協力いただいていない皆様も、ぜひご協力をお願いいたします。

▲松禅寺玄関に設置した募金箱（浅田工務店作成寄贈）の募金も見舞金に充当しました。

達磨忌と開山忌を営みました

11月3日（文化の日）、お寺では達磨忌、そして開山忌を併せて行いました。寺役員をはじめ檀家さんらがお参りされ、共にそれぞれの遺徳を讃え偲びました。読経を終えて、お寺に伝わる達磨図について話をさせていただきました。

お昼には、当番さんが午前8時半から調理に入った、けんちん汁、白和え、茶飯のほか、こんにゃくや漬け物など、それはそれは盛りだくさんの料理物で、お参りされた皆さんとゆっくり味わうことができました。

「けんちん汁」は、毎年調理される皆さんによって、味は多少なりとも変化します。それがまた、この料理の良さであり、奥深さでありましょう。

午後6時からは、兼務寺院でも同じように達磨忌を営みました。ここでも、手作りの汁物や漬け物など、いろいろな味を楽しませていただきました。

※妙心寺第18代管長・峰尾大休老大師（一八六〇～一九五四）の達磨図拝賛「唯停熊耳一叢々」（松禅寺蔵）

除夜の鐘を撞きましょう

心新たに良き新年を

行く年来る年、大晦日は除夜の鐘を撞いてみませんか。今年も大晦日には、お参りの皆さんによって除夜の鐘を撞きます。

除夜とは、除日（じょじつ）の夜といい、旧年を除く日と辞書にはあります。その夜に鳴らす「除夜の鐘」は、年を越すにあたり人の心にある百八つの煩悩を清らかな鐘の響きで鎮め、新しい気持ちで新年を迎えようとする仏事のひとつです。

12月31日（土）の午後11時45分頃から撞き始める予定です。本堂、薬師堂へのお参りもできます。温かい飲み物なども用意していますので、ぜひお参りください。

お願いとお知らせ

◇新年度の評議員について

評議員（14名）については一年で交代される地区が多いのですが、新たに評議員となられた方のお名前の報告を速やかにお願いいたします。評議員総会は、明年2月中旬を予定しています。

◇年頭について

正月2日（月）より年頭に各檀家さんを回らせていただきます。2日は但東町内を回り、それ以外は3日（火）に回りますので、よろしくお願いいたします。

◇1月の坐禅会は休止

毎月20日の午後8時からは坐禅会を開いていますが、1月20日は住職の都合によりお休みいたします。

平成二十四年 年忌法要

平成24年（二〇一二年）に年忌法要を迎える故人の歿年度は下記のとおりです。法要の実施日については、なるべく早めにご連絡ください。年忌正当年にあたられるご先祖様がおられるかの確認は、寺へ電話でお尋ねくださるか、年忌操出（ねんきくりだし）を本堂に張り出していますので、寺にお越しの際にご覧ください。また、年明けには個別に通知を差し上げます。

【平成24年度年回表】

●一周忌	平成23年没
●三回忌	平成22年没
●七回忌	平成18年没
●十三回忌	平成12年没
●十七回忌	平成8年没
●二十五回忌	昭和63年没
●三十三回忌	昭和55年没
●五十回忌	昭和38年没
●百回忌	大正2年没

松禪寺霊園のご案内

松禪寺霊園の使用者を募集しています。お寺の境内地ですので、維持管理はお寺が行います。駐車場のすぐ側にありますので、足の悪い人、車いすを使用される人でも安心してお参りできます。松禪寺の檀家、あるいは今後檀家になっていただける人を対象にしています。お問い合せ、使用ご希望のご相談は、松禪寺か総代役員にお願いいたします

あとがき

地震、津波、台風と自然の猛威に成すすべもない、そんな思いが強く残った一年でもありましたが、ならばひたすら祈ろうと仏様に手を合わす人も多かったことでしょう。来年こそ平穏無事な生活を取り戻せますように、また、仏様に祈る毎日がここにあります。今年一年の暮らしに感謝し、来年もよろしくお願いいたします。